

社会活動報告書

[活動期間 2018.1.1-12.31]



SHIMANO

社会活動報告書 発刊にあたって 03

企業価値の向上を目指して 04

こころ躍る製品を
シマノを支える人づくり
自転車・釣りの社内啓蒙活動
安全衛生への取り組み

欲びの高揚 10

自転車文化の創造に取り組む — 文化推進室
自転車と健康
OVE (オーブ)
SHIMANO SQUARE
これまでのシマノの文化活動
その他の活動

利用環境の改善と保全 20

徹底したエネルギーの効率化を追求
シマノグリーンプラン
身近な環境に対する取り組み

信頼の構築 26

子供たちの教育支援
安全で楽しい自転車利用を目指して
義捐活動
企業市民として

社会活動報告書を読んで 34

チームシマノ社会活動方針 35

社会活動報告書 発刊にあたって



情報技術革命で幕を開けた21世紀は、全てのモノがインターネットでつながるIoT時代に突入し、指数関数的に進化するデジタル技術によって、新たなフェーズを迎えています。

我々の生活が格段に便利になった反面、AIが大失業時代を招くといったような、人心を惑わす種々雑多な情報が充ち溢れ、得体のしれない将来不安も生じています。

人生百年時代を迎えた今、多くの人々がいかに楽しく、心身ともに健康に生きるかに関心を寄せ、様々な取り組みをはじめています。

当社の使命である「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」を決して見失うことなく、自転車や釣りの豊かな楽しみを広く社会にお届けし続けることが私どもの大切な役割であると考えています。

お蔭さまで、私どもは2年後に創業100周年を迎えます。

日本発の開発型製造業として、いっそう創意に富んだものづくりを追求し、こころ躍る製品を通じて、豊かな自転車文化・釣り文化を創造する「価値創造企業」であり続けられるよう、さらなる努力を続けてまいりたいと思います。

この報告書が私どもをご理解いただく一助となれば幸いです。

株式会社シマノ
代表取締役社長
島野 容三

企業価値の向上を目指して

当社の事業活動の基本は、「こころ躍る製品」を社会に提供することです。使いやすく快適に走行できる自転車部品、テクノロジーと感性が融合した釣具はもとより、ウェアやシューズなど、それぞれの世界をより楽しく演出する製品をお届けすること。そして自然とともに楽しむサイクリング、フィッシング、ロウイングの素晴らしさをお伝えすることで、お客様により豊かなライフスタイルを提案していきたいと考えています。



こころ躍る製品を

自転車部品事業

■ 欧米をメインターゲットとした電動アシストユニット「SHIMANO STEPS E7000/E6100/E5000シリーズ」

ヨーロッパでさらに広がりを見せている E-バイク（電動アシストバイク）。新たに3種類の電動アシストユニットを提案し、より幅広い年齢層の人々に、より多彩な E-バイクの楽しさを訴求することを目指しました。本来の自転車らしさを追求するとともに、より坂道に強く、より長時間走行できるようになっています。



シティ・トレッキングバイク用の E6100シリーズ
(写真はシティ用モデル)

■ マウンテンバイク用コンポーネンツフラッグシップモデル「XTR M9100シリーズ」

27年にわたる XTR の研究開発を経て、その原点に戻り新次元のマウンテンバイク・レーシングコンポーネンツをつくり上げました。レースにおける過酷な要求を満たすために設計され、クロスカンントリーやエンデューロ、マラソンレースまで、あらゆるシーンにおいて最適な機能を提供しています。



■ ロードバイク用コンポーネンツ「SHIMANO 105 R7000シリーズ」

SHIMANO 105はレースから日常まで、多くのユーザー様にロードバイクを楽しんでいただくためのコンポーネンツです。R7000シリーズは、上位モデルの先進機能を継承するとともに、より安定したブレーキコントロールを実現するディスクブレーキのラインナップには、手の小さなライダー向けの新設計レバーも採用しました。



釣具事業

■ シマノスピニングリールのフラッグシップモデル「STELLA (ステラ)」

4年ぶりにモデルチェンジを果たした STELLA。ドライブギアの歯一つひとつまでの設計を見直し、より理想的な歯の形状を追求。滑らかな巻き心地はもちろんのこと、巻き戻し時のガタや音鳴りも低減、さらにギア強度と防水性も向上させるなど、当社の技術力を遺憾なく発揮し、フラッグシップモデルにふさわしい製品となっています。



■ ICAST において「Curado DC」「TEKOTA」が受賞

アメリカのフロリダ州・オーランドで開催された、世界最大級の釣具展示会 ICAST (International Convention of Allied Sportfishing Trades)。連日賑わいを見せ、初日の試投会には、当社の新製品、「Curado DC」も登場、多くの方に新しいデジタルコントロールブレーキ (DC) を試していただきました。「Curado DC」が「Best Freshwater Reel 賞」を、「TEKOTA」が「Best Saltwater Reel 賞」を受賞しました。



Curado DC

ライフスタイルギア事業

■ ソフトグッズのハイエンドシリーズ「S-PHYRE (エスファイア)」にアイウェアが登場

2016年に当社の自転車用ソフトグッズのハイエンドシリーズとして誕生した S-PHYRE シリーズ。シューズを始め、ウェアやアクセサリなど様々な製品を展開し、2018年にはアイウェアがデビューしました。オランダの UCI ワールドツアーチームとのスポンサー活動を通じ、どんな天候下でも路面が見やすく、一日中着用してもストレスのないアイウェアに仕上げました。



シマノを支える人づくり

社員教育

海外拠点のリーダー研修 '15年スタート Learning Team Shimano Program

世界中に広がる約50ものシマノ拠点。それらすべてが当社の共通理念と志を正しく理解し、行動することが大切だと考えています。

本社では、海外拠点のマネージャー候補者を対象に、リーダー研修を行っています。創業の地・堺にて当社の歴史やDNAを学ぶとともに、現在の経営課題について、トップマネジメントを交えながら考える機会を設けています。

また、本社のメンバーとともに、現在抱える課題について取り組むプロジェクトなども取り入れることで、拠点を越えたコミュニケーション、ネットワークづくりも促進しています。

リーダーシップ養成プログラム '00年スタート Shimano Leadership Development (SLD)

当社では、2000年よりリーダーシップ養成を目的としたSLD人材開発プログラムに取り組んでいます。その一環であるSLDディーラー派遣活動は、世界各地のディーラー様のご協力を得て、現地でメカニックあるいは販売員として活動させていただきながら、製品が売れる現場、現地の文化などを肌で学ぶものです。2018年度は6名のチームシマノメンバーが、北米・ヨーロッパの各地に派遣されました。



シマノ本社の教育体制

当社の人材育成方針は、企業としての基本的な育成プログラムを着実に遂行するとともに、当社独自の育成プランを構築し、「価値創造企業」に結びつけていくことです。ものづくりだけでなく、人づくりも将来を見据えながら体系的に取り組んでいます。

〈主な教育体系〉

・階層別研修

新入社員研修：社会人としての基礎知識や会社への理解を深めます。

2年目研修：会社が期待する行動を改めて理解するとともに、これからの自己成長プランを考えます。

・コミュニケーション研修：

チームシマノ約13,000人のうち、日本人は1割程度。外国語を必要とする場面が多いため、英語・中国語等の語学研修を実施し、相手に伝わるコミュニケーション実践のために、対話力や論理力を習得する機会を提供しています。

・海外派遣研修：

Shimano Leadership Development 派遣活動：P6参照

・自己啓発支援：

一人ひとりがプロ集団の一員であるという自覚を持って業務に取り組んでもらえるよう、自己啓発を奨励、業務に係わる専門スキル・知識を自身の都合に合わせて学習できるようにしています。



〈各拠点での研修活動〉

本社の教育体制をベースに、チームシマノ各拠点においても教育・研修活動を行っています。その一部をご紹介します。

従業員の継続的な教育の実施

Innovative Textiles, Inc. は地域の大学等との連携により、従業員に専門的な訓練を受ける機会を提供し、スキルの維持と向上、能力開発のための教育支援プログラムを実施しています。

クロストレーニングプログラムの実施

'17年スタート

Innovative Textiles, Inc. は従業員に社内の様々な部署を経験し、新たなスキルを身につける機会を提供しています。このプログラムは、従業員の満足度と働く喜びの向上につながっています。

大卒新入社員の研修とオリエンテーションの実施

'11年スタート

シマノ昆山(中国)では人材開発部が中心になって、新入社員の研修を行なっています。



シマノアカデミー

'13年スタート

シマノアカデミーは全ヨーロッパ拠点の管理職や若手リーダー、新入社員を対象にした教育プログラムです。個人やチーム、またはビジネスの成長を促し、シマノの強みをさらに強化するものです。従業員のキャリアアップに繋がる効果的なプログラムとして役立っています。



視野を広げる講習

'12年スタート

シマノヨーロッパでは、「Inspirience[®] Workshop」と呼ばれる講習を従業員に対して行っています。毎回、専門の講師を招き、様々なトピックについて講習を行っています。

※ Inspiration と Experience を合わせた造語



多彩な人事研修を実施

'18年スタート

シマノフィリピンでは、従業員の技術的スキルのみならず、人として、プロとしての成長を支えるソフトスキル向上のため、四半期で15もの研修を実施しています。



自転車・釣りの社内啓蒙活動 —— 自社事業の楽しさを知る

🇲🇾 釣り大会を開催

シマノマレーシアでは、地元の管理釣り場にて、社内向け釣りイベントを開催しました。119名の従業員が参加し、釣りを楽しむとともに、従業員同士の交流も深められました。



🇲🇾 サイクリングイベントを開催

シマノマレーシアでは、リーダーシップの育成やコミュニケーション力・創造力・発想力の強化を目的に「宝探しサイクリングイベント」を開催しました。60名の従業員が参加し、サイクリングを楽しみました。



🇵🇱 フィッシングキッズデイを開催 '18年スタート

シマノポーランドは従業員の子供たち向けのイベント「フィッシングキッズデイ」を開催しました。参加した多くの子供たちにとって釣りは初めてであり、釣果を上げる楽しさを体験してもらいました。



🇮🇩 自転車イベントを開催 '05年スタート

シマノバタム（インドネシア）は、工場周辺の約10kmのコースでサイクリングイベントを開催しました。参加した40名を超える従業員は、思い思いにサイクリングを楽しみました。



🇮🇩 釣り大会を開催 '07年スタート

シマノバタムでは、毎年恒例の釣り大会を開催しました。釣り方の講義の後、約200名の参加者が10チームに分かれて魚の大きさや釣れる速さを競い、釣りの楽しさを体感しました。



🇵🇭 トレイルライドイベントを開催 '15年スタート

シマノフィリピンサイクリングクラブは、自然を楽しむことで従業員の健康と幸せを促進することを目的に、トレイルライドイベントを開催しました。



🇮🇹 キッズフィッシングイベントを開催 '16年スタート

シマノヨーロッパは従業員の子供たち向けに釣りイベントを開催しました。プロアングラーの指導のもと全員が釣果を得ました。使った釣具は、これからも釣りを続けられるよう、子供たちにプレゼントされました。



🇨🇳 釣りイベントを開催 '13年スタート

シマノ昆山（中国）フィッシングクラブは、社内で釣り文化を広めるため、昆山市花橋でルアーフィッシングイベントを開催しました。参加者11名全員が釣果を得ました。



🇨🇳 サイクリングイベントを開催 '13年スタート

シマノ昆山サイクリングクラブは、社内で自転車文化を広めるため、千島湖までの自転車ツアーを開催し、27名の参加者が95kmのサイクリングを楽しみました。



🇺🇸 Bike to Work (自転車通勤) の奨励

シマノノースアメリカは毎年、国の「自転車通勤月間」に合わせて、自転車通勤を奨励しており、自転車のメンテナンスや安全についての実習も行っています。今回は188名が合計で4,111マイルを走行し、約780リットルのガソリンの節約となりました。

安全衛生への取り組み —— 安全で快適な職場環境の構築

当社は、「安全と健康はすべてに優先する」との精神にもとづき、安全と健康の確保が健全な企業活動の基本であり、かけがえのない価値であると認識し、快適な職場環境の形成のため、全従業員が協力して労働安全衛生活動の推進に努めています。

労働安全衛生行動指針

1. 法令の順守

労働安全衛生に関する諸法令及び当社が同意するその他の要求事項を順守する。

2. 労働安全衛生リスク低減目標・監査

低減目標の設定、監査を実施し、必要な見直しを行い継続的改善を行う。

3. 労働安全衛生リスク低減

当社の事業活動による労働安全衛生リスクを充分考慮して、下記の労働安全衛生活動を行う。

- (1) 機械設備の運転及び保守、点検作業のリスク低減
- (2) 作業環境によるリスク低減
- (3) 作業行動におけるリスク低減
- (4) 物流作業におけるリスク低減



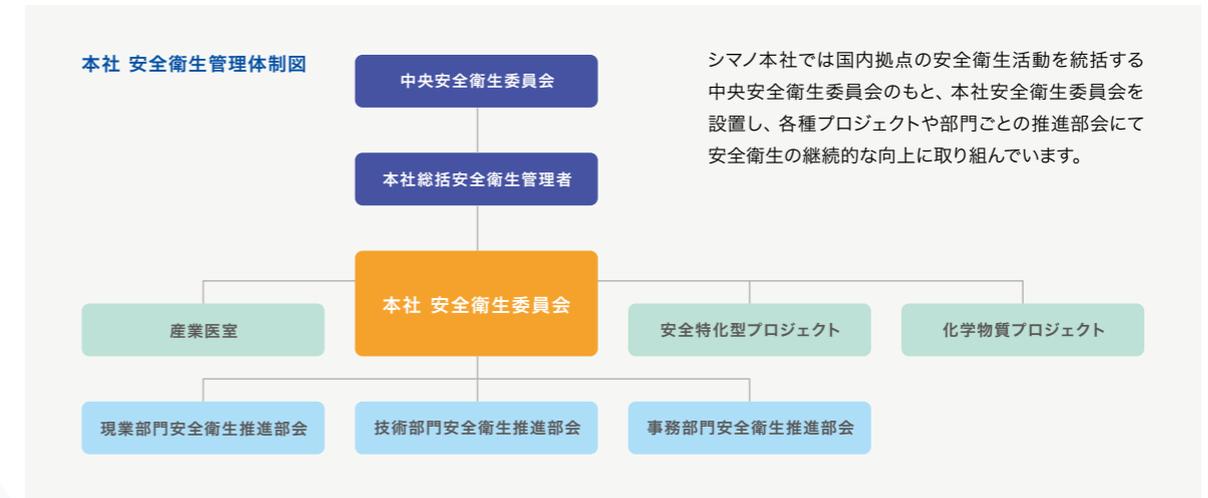
- (5) 製品テスト作業におけるリスク低減
- (6) VDT作業におけるリスク低減
- (7) 交通災害リスク低減

4. コミュニケーション

労働安全衛生の適切な確保は、良好なコミュニケーションのもとに実現されることを自覚し、従業員との十分な協議を行う。また、行政・地域社会活動に積極的に参加し外部とのコミュニケーションを保つ。

5. 教育・啓発

全ての従業員に対し、労働安全衛生方針・労働安全衛生活動に必要な教育訓練・労働安全衛生活動の有効性を周知する。また、関係構内協力工場に対し、労働安全衛生活動に必要な情報交換を行う。



安全衛生活動の主な取り組み

2018年度からは、製造現場一体となって災害の未然防止活動を実現し、現場に即した活動の徹底と強化を図ることを目的として安全特化型プロジェクトを開始しました。

安全により一層配慮した職場環境の実現のため、リスク評価基準や製造・作業プロセスの見直し、安全教育の更なる強化等を推進しています。

喜びの高揚

——人々に楽しみと喜びを提供する

「こころ躍る製品」——それは人々に自転車・釣りの楽しさを満喫していただくものに他なりません。そして、その楽しさをより多くの人々に伝え、その機会を提供していくことも、当社の重要な活動のひとつです。当社が主催や協賛している様々な自転車・釣りのイベントは、人々の楽しみ場であるとともに、交流の場となるものとして大切にしています。今回は、当社が永年にわたって取り組んでいる自転車文化の推進・創造について、バイクコンポーネンツ事業部「文化推進室」の活動を通じてご紹介します。



自転車文化の創造に取り組む——文化推進室

自転車の利用価値は、移動したり、物を運んだり、レースでスピードを競ったりするだけではありません。自転車は、私たちの生活の様々な場面で、いろんな人々や楽しい出来事と出会うコミュニケーションツールであると考えています。心身の健康の向上や社会でのコミュニケーションの発展をはじめ、多くの価値をもたらしてくれます。そのような自転車の価値を多面的にお伝えしていく役割を担っているのが、当社文化推進室です。

2014年に発足した文化推進室。現在は、自転車の健康効果を科学的に検証し、わかりやすく伝える「自転車と健康」係、自転車のある豊かな暮らしを提案する「OVE」係、都市部での自転車・釣りの楽しさを提案する「SHIMANO SQUARE」系の3つの係で、自転車の価値を多方面から幅広く伝える活動を行っています。



文化推進室が目指す「自転車と一緒に作る、健康的で豊かなライフスタイル」の提案

文化推進室の活動

自転車通勤の行政・企業への支援活動

「自転車と健康」係

自転車の健康効果の社会的認知度向上

情報誌「Cyclingood」の発行

女性へのサイクルライフ提案のための調査研究

「OVE」係

カフェ/セレクトアイテムを通じた幅広い顧客層へのアプローチ

“散走スタイル”による新しいサイクルライフの提案

各種イベントを通じた豊かな暮らしの提案

「地域交流会」を通じた自転車文化の創造

「SHIMANO SQUARE」係

カフェ/グッズ販売を通じた幅広い顧客層へのアプローチ

製品展示による機能・ブランドの認知度向上

新しいアーバンスポーツバイクライフの提案

イベントを通じた自転車・釣り文化の創造



自転車と健康

医学、科学の進歩で人々の寿命はどんどん延びています。「人生100年時代」が現実のものとなろうとしている一方、少子高齢化が加速していく中で、いつまでも健康であることの重要性は、これまで以上に高まっているのではないのでしょうか。自転車と健康係では、自転車の具体的な健康効果について調査・研究を実施しています。そこで得た知見をもとに、情報誌やウェブサイトの制作、自転車通勤の推進等を通じて、人々の健康に貢献していきたいと考えています。

■ 自転車通勤の推進—行政・企業への支援活動

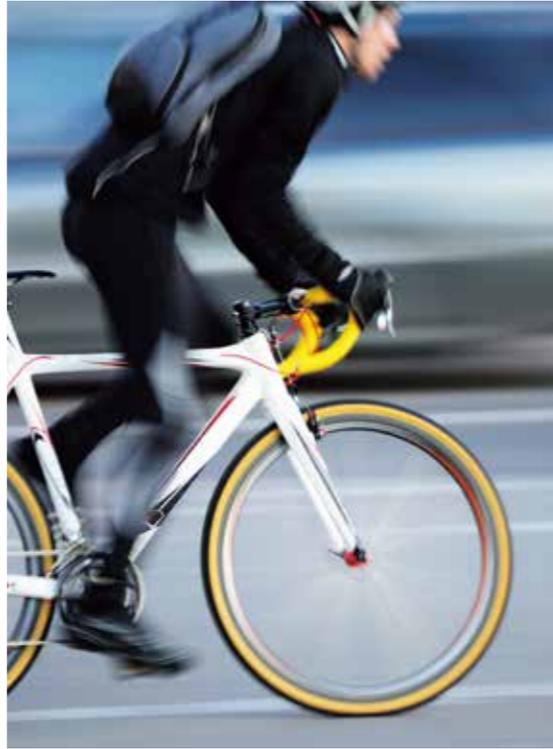
毎日の通勤に自転車を活用し、働く人の心身のコンディショニングに役立てていただきたいと考え、力を注いでいるのが行政や企業に呼びかける活動です。

それは、自転車をライフスタイルの一部に取り入れ、健康的な暮らしを営んでいただくことで、働く世代の“クオリティ・オブ・ライフ”の向上に役立ちたいとの想いによるものです。

自転車通勤の基本的なノウハウと体験走行をセットした、ワークショップ形式のセミナー「自転車通勤マインドスイッチプログラム」を作成し、自治体や企業で実施しています。

プログラムの実施・運用はマニュアル化し、各自治体や企業が独自でも行えるよう支援しています。

また、自転車通勤の魅力をお伝えする「マインドスイッチ」ウェブもリリース。働く人の健康的なライフスタイルの確立に寄与してまいります。



健康効果の実験・検証



「Cyclingood」の打ち合わせ。読者の興味や世の中の流れも加味し誌面を考えます



年4回発行している情報誌「Cyclingood」。ウェブサイトでは、各号の電子版をアップロード。また、「Cyclingood ウェブ」も運営しています

■ 情報誌「Cyclingood」

「Cyclingood」は自転車と一緒に健康的で豊かな暮らしの提案を目指し、フリーペーパーであるタブロイド版情報誌に加え、ウェブサイトでも情報を発信しています。情報誌は、自転車販売店様を中心にカフェや雑貨店、自治体関連施設などに配布。発行数は25,000部を超え、その輪をますます広げています。

また、ウェブサイトでは自転車の具体的な健康効果を研究者へのインタビューや科学的なデータで解明する「Health」、自転車の楽しさやライフスタイルにフォーカスする「Life」、自転車を活用した、町づくりに取り組む自治体や働く人の健康づくりを進めている企業の活動などを通じて、社会に貢献する自転車をレポートする「Social」の3つのコンテンツを中心に、自転車のある健康的なライフスタイルや、それを実践する人をお伝えしています。

■ 女性へのサイクルライフ提案

女性たちの様々な生活と自転車のより良い関わり方を考え、女性へのサイクルライフ提案のための調査研究も始めました。

例えば、ライフステージによって変化する女性のニーズをくみ取り、自転車の良さをどう生かせるか検討を重ねています。

また、当社の製品開発部と連携し、女性のニーズに合った機能とそれを実現する自転車（部品）について考えることも私たちの役割です。

女性にとっての自転車の価値を、より多くの女性に伝え、自転車のある素敵な暮らしを知っていただきたいとの想いで活動を行っています。





 LIFE CREATION SPACE
OVE OVE (オーブ)

■ 豊かなサイクル・ライフスタイルを提案

東京・南青山に「ライフクリエーション・スペース OVE」がオープンしたのは2006年。Opportunity（機会）、Value（価値）、Ease（気楽さ）をコンセプトにしたこのスペースでは、カフェやセレクトアイテム、様々なイベントを通じたアプローチで幅広い顧客層へ、豊かなサイクル・ライフスタイルを提案しています。

とくに、「散走スタイル」による新しいサイクル・ライフスタイルのご提案は、OVE の大きな特徴となっています。「散走」とは、徒歩で巡ることが難しい道りを、散歩するようにゆっくりと走り、価値あるモノやコト、歴史に触れる体験を自転車「で」愉しむ、贅沢なアクティビティとも言える新しいライフスタイルです。四季の移り変わりやその地ならではの文化を細やかに味わう日本ならではの自転車文化と言えるものです。いつか、

「SANSO」と世界語となるほど、愛好者が広がるのが私たちの夢です。

毎週末の散走のほかにも、機に応じた様々なイベントを通じ、豊かな暮らしの提案を行っています。

音楽ライブや食・アートの体験会、トークショーなど、一見自転車とは無関係な分野のようですが、別の角度から新たなお客様を散走やサイクルライフへと誘うきっかけとしています。

また、2014年から自転車まちづくりを促進する地方自治体や民間団体に呼びかけ、「地域交流会」を開催しています。各地域の取り組みや課題を共有し、ワークショップなどを通じて自転車の活用を一緒に考えています。自転車活用が一過性のものに終わることなく、文化創造のために各団体が自ら工夫し、行動していただくことが大切だと考え、そのサポートを精力的に行っています。

豊かな暮らしに興味を持ちながら、自転車にはあまり乗らない人たちにも、少しでも自転車の楽しさや価値を伝えていきたいと考えています。



 SHIMANO SQUARE
シマノスクエア

■ 都市の中で育む「知的創造・交流の場」

2017年2月、大阪駅に隣接するグランフロント大阪・ナレッジキャピタル内にオープンしたSHIMANO SQUARE。「出会い」「価値体験」「感動体験」「癒し・くつろぎ」をご提供する場として、ゆったりくつろげるカフェスペース、自転車・釣りに関する情報をご提案するラボスペースを設けています。

2018年度は延べ34,000人を超えるお客様にご来店いただきました。平日はビジネスマン、週末は家族連れや若い方を中心とし、1日平均200人にのぼります。親しみやすく落ち着いた雰囲気のカフェは、一つひとつのメニューに厳選した素材を使用し、見た目にも自転車や釣りのイメージを入れるなど、シマノらしさにこだわっています。

また、カフェテーブルからは隣のラボスペースが垣間

見え、自然と自転車や釣りの世界に興味を抱いていただけるよう工夫しています。

ラボスペースには、シマノ製品のフラッグシップモデルや最新モデルを展示。製品が使用される美しいシーンを映し出す大型スクリーンとともに、自転車・釣り文化の紹介を行っています。

また、自転車・釣りに関する講習会や各種ワークショップ、散走などのイベントも積極的に開催しています。都市の中で育む「知的創造・交流の場」をテーマにSHIMANO SQUAREでは、今後もより多くの方々に上質な自転車と釣りの世界の楽しさを知っていただけるよう取り組んでまいります。



これまでのシマノの文化活動

当社では、半世紀以上にわたり自転車文化の創造に取り組み、製品を通じた新しいライフスタイルの提案をはじめ、様々な文化活動を展開してきました。

■ “製品”を通じた新しい自転車文化の提案

パフォーマンス・バイ・デザイン「Santé」

ロードバイクを広く一般に普及させるために誕生した Santé。新しいライフスタイルの提案として美しいデザインと機能・操作性にこだわりました。(1986年)



気軽にマウンテンバイクを楽しむためのコンポーネンツ「STX」

マウンテンバイクをもっと気軽に楽しんでいただくため、「Ride light」をコンセプトとして、高機能と扱いやすさを両立させたコンポーネンツ。(1993年)



アーバンスポーツ・コンポーネンツ「METREA」

「アーバンスポーツ」という新しいジャンルに投入されたコンポーネンツ。都市部でスタイリッシュに、スポーティに自転車を楽しむためのデザイン・機能を搭載。(2015年)



■ 出版物・イベントによる情報発信

ファッションとしての自転車「The City Cycle」

大衆スポーツ・ファッションとしての自転車の普及を提案するマガジン。(1980年発刊)



本格サイクルスポーツ情報誌「Les Maillots」(レ・マイヨール)

サイクルスポーツの情報が乏しかった日本市場に、海外のレースの生の現場を伝えるためのマガジン。日本語解説付き。(1984年発刊)



街乗り自転車デザイン展「EUROPEAN BICYCLE DESIGN CONTEST」

ヨーロッパで開催した、自転車の可能性を考えるデザイン展。(下画像は、応募作品写真集)(1990年代)



■ “施設”での体験を通じた提案

自転車との出会いの場「自転車博物館」

国内で唯一の自転車専門の登録博物館。様々な自転車を展示しイベントや講習会なども幅広く行っています。(1992年設立)



体験型展示施設「Shimano Cycling World」

自転車の体験型展示施設としてシンガポールにオープン。東南アジアにおける自転車文化の発展を目的としています。(2014年設立)



その他の活動

● (日本)

フィッシング・カフェ プロジェクト & シマノ TV

'00年スタート

釣り人が気ままに交流し、新しい釣り文化を創造していく「フィッシング・カフェ プロジェクト」。年3回発行される雑誌と、スカパーフェクTV・BS 釣りビジョンで放送されるテレビ番組、最新情報をお届けするウェブサイトを通じて、釣りをめぐる様々な話題や情報を発信しています。2007年からはウェブコンテンツとして24時間365日視聴できる、世界規模のフィッシングチャンネル「シマノ TV」を開始。充実した内容で、ビギナーからベテランまでお楽しみいただけます。



雑誌「Fishing Café」
フィッシングチャンネル「シマノ TV」
<http://tv.shimano.co.jp/>

シマノレーシング

'73年スタート

1973年発足の「シマノレーシング」。時代とともに活動を変化させながら、日本の自転車競技シーンをリードしてきました。近年は「世界トップレベルで活躍する選手の育成」をチームフィロソフィーに掲げて活動をしています。2018年は国内外で60程のレースに参加。年々、着実に結果に繋がっています。また、日本の自転車文化の向上と自転車競技人口の拡大に向けた貢献活動も精力的に行っています。



イベントの主催・協賛

世界各地で自転車や釣りのイベントを開催し、また協賛しています。日本をはじめとするアジア各地や、新興国ブラジルにおいても自転車や釣りの楽しみ方を提供し、徐々に広がりを見せています。

■ 主な自転車イベント (主催 / 協賛)

● (日本)

① シマノ鈴鹿ロードを開催 (三重)

約11,000人が参加 '84年スタート

② SHIMANO Biker's Festival を開催 (長野)

約2,200人が参加 '91年スタート

● (オーストラリア)

③ シマノ MTB グランプリを開催

約300人が参加 '08年スタート

④ エールズ・フォートレイルズを支援

'18年スタート

● (チェコ)

⑤ 自転車競技大会開催を支援

'18年スタート



● (フィリピン)

⑥ シマノダート (オフロード) プレイ大会を開催

約720人が参加 '10年スタート

⑦ グランドシマノライドを開催

約1,500人が参加 '17年スタート

● (ブラジル)

⑧ シマノフェストを開催

約30,000人が参加 '10年スタート



テクニカルサポートの派遣

トップレベルのプロレースだけでなく、世界各地の幅広いサイクルスポーツイベントにもサポートカーとスタッフを派遣。参加者の皆様に安全に楽しんでいただくことを第一にテクニカルサポートを行っています。



■ 主な釣りイベント (主催)

● (オーストラリア)

Evans Head Fishing Classic

'08年スタート

シマノオーストラリアはエヴァンスヘッドフィッシングクラシックにおいて、シマノ製品の販売促進を行なうとともに、子供たちに釣り糸の結び方や釣りの仕方を教えるシマノ子供釣り教室を開催しました。

● (日本)

シマノ ジャパンカップ

'84年スタート

競技としての釣りを楽しむ場を提供するため、1984年から始まったシマノジャパンカップ。今では様々な釣種のトーナメントを全国規模で行っており、その競技レベルの高さやルール・順位づけの正当性が評価されています。

その他のイベント

競技だけでなく、釣りファンに広く楽しんでいただくためのイベントも、多数開催しています。これからも釣り文化のさらなる発展を願い、幅広い活動を続けていきます。



利用環境の改善と保全

——自然環境、生活環境、製品利用環境の改善と保全への協力

徹底したエネルギーの効率化を追求

当社では、世界の各生産拠点を中心に、省エネルギー（省エネ）を大きな課題のひとつとして取り組み、徹底したエネルギーの効率化を図っています。

それは、単に各国の法規制とそのガイドラインに従うだけでなく、生産性とのバランスからトータルなエネルギー効率を追求するなど、より積極的なものとして取り組んでいます。

また、定期的に「省エネ推進部会」を開催、つねに各拠点の成果や情報をグローバルに共有し、省エネ活動に活かしています。

地球環境——それはアウトドア・スポーツを楽しむためのフィールドです。その保全のためにたゆまぬ努力を続けることは、当社にとって当然であり、基本的な命題です。製造過程において最大限環境負荷を抑えるため、様々な設備改善・革新につねに取り組むとともに、海岸や河川といったフィールドの清掃や環境保全活動にも積極的に参加しています。今回は、グローバルに展開している省エネルギー活動を中心にご紹介します。

〈各生産拠点の2018年度主な省エネ活動〉

-  **本社工場**

エネルギー原単位推移、工場各部署での省エネ活動をきめ細かく管理。エネルギー使用量を前年と同等にとどめながら、生産性を高めました。
-  **シマノ下関工場**

2016年に完成した新工場稼働後、下関工場省エネ推進部会を立ち上げ、省エネ活動を展開。都市ガス、電力使用量に大きな省エネ効果を得ました。
-  **シマノ熊本**

2013年以来、概ね生産量と電気使用量の増減が一致してきましたが、LED照明に切り換えるなど省エネ化を図り、2019年度には、生産性100に対し、電気使用量80以下にとどまることが予測されます。



シマノ熊本



シマノ下関工場



本社工場



シマノ昆山
節水プロジェクト



シマノ昆山
照明改善プロジェクト



シマノチェコではナトリウム灯をLED化

-  **シマノ昆山（自転車部品）**

節水プロジェクト、照明改善プロジェクトの省エネ活動を展開。地道な活動を続けながら、着実に省エネ効果を得ました。
-  **シマノ昆山（釣具）**

人的に行っていた照明コントロールを自動化、また、水処理システムを見直し適正化を図ることによって省エネ効果が得られました。
-  **シマノ天津**

塗装工程の消費電力削減活動を推進、着実な成果を収めました。

-  **シマノシンガポール**

雨水貯水設備により水の消費を軽減。機械装置コントロールの適正化活動や排水処理設備の導入、製造各工程での節水活動などを展開し、省エネを着実に実現しています。

-  **シマノマレーシア**

消費電力削減活動、機械装置コントロールの適正化活動を展開。また、従業員に向けて省エネ活動のトレーニングを実施しています。

-  **シマノチェコ**

照明のLED化とともに、機械装置コントロールの適正化活動を展開し、省エネの成果を上げています。

世界に広がるシマノの生産拠点



Global シマノグリーンプラン '04年スタート

当社では2004年以来、環境負荷の低い製品づくりを行うための指針として、シマノグリーンプラン (SGP) を策定し、協力会社と協働してその順守に取り組んでいます。

■ 環境負荷・健康負荷の低減

SGPは当社製品を構成する原材料・部品・製品に含まれる化学物質の規制値を明確にし、協力会社にも周知徹底することで、より環境負荷・健康負荷の少ない製品と安心を世界中のお客様にお届けすることを目的とした調達基準です。年々厳しくなる国内外の法規制や顧客要求に応じて SGP を改訂し、協力会社へ理解と協力を要請するとともに、社内の分析機器や外部分析機関の活用により製品の適合確認を行い、お客様に信頼される製品づくりを進めています。

■ 法規制順守への取り組み

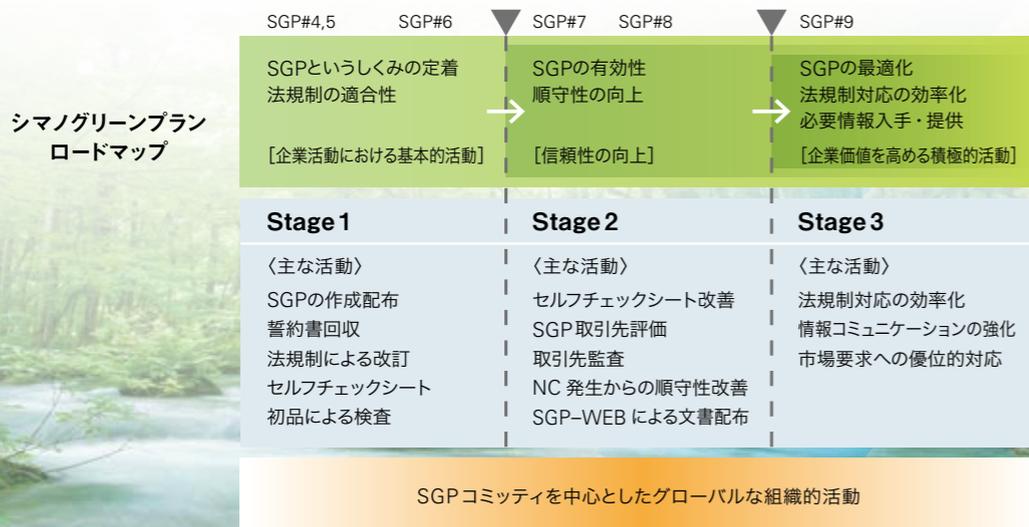
当社では、SGPを軸に製品含有化学物質管理を実施し、継続的な改善に努めています。2018年の具体的な取り組みとしては、2019年7月からEUのRoHS指令*で新たに規制されるフタル酸エステル類について、対象製品の含有を前倒しで制限することを進めてきました。社内の開発・購買・出荷・営業部門および海外工場や協力会社と連携をとり、対象となる製品の生産・出荷スケジュールを確認し、規制に適合した製品をお客様にお届けする体制が整いました。この取り組みを通じて、規制情報を迅速に入手し、対象製品レベルまで展開した情報を社内および協力会社で共有しながら、計画的に生産・出荷する体制が強化されました。世界的に厳しさを増す化学物質規制を確実に順守するため、今後もより効果的で効率的な化学物質管理システムの構築を図ります。

*電子・電気機器における特定有害物質の使用制限に関する指令

■ ロードマップ

現在はSGP9版の運用により、ロードマップ上の Stage3の活動として、法規制対応の効率化と情報コミュニケーションの強化を進めています。

本社工場と海外工場・販社のSGPコミッティメンバーが情報交換し、協働して企業価値を高める活動を行っています。海外拠点とはウェブ会議システムなどを利用することで、迅速・的確に連携できるようになりました。また、重点管理すべき製品を扱う部署では、定期的にセミナーを開催してリスク管理手法や市場情報の共有を行い、SGP管理の向上に積極的に取り組んでいます。今後も協力会社とのパートナーシップを強化し、環境や健康に配慮した製品づくりを継続して推し進めてまいります。



分析機器による社内検査 (シマノ昆山)



社内スタッフ向けSGPセミナー (シマノ本社)

身近な環境に対する取り組み

〈清掃活動〉

● シマノ本社のクリーンアップ活動 '06年スタート

シマノ本社では、堺浜自然再生ふれあいビーチ、せんなん里海公園にてクリーンアップ活動を行いました。堺浜自然再生ふれあいビーチでは114名の従業員が参加し、1,260kgものごみを、せんなん里海公園では108名が参加し、100kgものごみを集めました。



せんなん里海公園



堺浜自然再生ふれあいビーチ

● シマノ下関のクリーンアップ活動 '00年スタート

下関工場では、工場の周辺から最寄駅付近までのクリーンアップ活動を行いました。93名の従業員が参加し、清掃や草刈りを行いました。



● シマノ熊本の清掃活動 '05年スタート

シマノ熊本では毎年4月と10月の年2回、地域の清掃・ごみ拾い活動を行っています。2005年に現在の工場に移転以降、13年間継続して行なっています。



🇵🇭 サンファン川の清掃活動 '15年スタート

シマノフィリピンが立地するファーストフィリピン工業団地内を流れるサンファン川の清掃活動を毎年実施しています。この活動は、流域の工業廃水や農業廃棄物、生活排水によりサンファン川の水質が悪化していたことを受けて始まったもので、2018年は約500kgのごみを回収しました。



〈植樹活動〉

 **カルヴィナー市750周年記念植樹** '18年スタート
シマノチェコが位置するカルヴィナー市が創立750周年を祝うにあたり、シマノチェコは市役所と協力して地域の公園に記念植樹を行いました。

 **環境保護のため植樹を継続** '17年スタート
シマノトルコは、緑の環境を守るため、お客様と一緒に苗木の植樹をしています。2017年には500本、2018年には1,000本の苗木を植えました。

 **内モンゴル自治区100万本の植樹に参加** '05年スタート
シマノ天津とシマノ昆山（中国）は、内モンゴル自治区に木を植える「100万本の植樹」プロジェクトに参加しました。毎年2,000本の植樹を続けています。

 **シマノ天津植樹デー** '12年スタート
シマノ天津は、地域の環境保全の観点からシマノ天津植樹デーを実施しており、2018年は32名のスタッフが27本の樹を植えました。

 **植樹プログラム** '15年スタート
2015年、シンガポール建国50周年を祝い、国の植樹プログラムが始まりました。シマノシンガポールでは、これまでに4つの地域に200本を超える樹木を植えてきました。2018年は、ベドック貯水池公園に50本の植樹を行ないました。

 **シマノフィリピンの植樹活動** '18年スタート
シマノフィリピンは、工場が位置するファーストフィリピン工業団地の敷地内で行われた植樹活動に参加しました。

 **内陸の水路の保全を支援** '16年スタート
シマノオーストラリアは内陸水路を保全するための慈善団体を支援し、マッコーリー川とニューサウスウェールズ川流域に1,500本から2,000本の樹を植樹するプログラムを開催しています。



〈環境保護への取り組み〉

 **カピバラライドを開催** '11年スタート
シマノラテンアメリカは毎年、サンパウロを流れるピニエイロス川の水質汚染に関する議論を主導して行っています。今回は約50名の子供たちの教育もかねて、NGO 団体や社会環境の専門家とともに川の水質向上について話し合いました。

 **アース・アワーをPR** '16年スタート
シマノ昆山は、昆山ワイルドホーススポーツセンターにおいて、アース・アワー（世界中の人々が同じ日・同じ時刻に消灯することで地球温暖化防止と環境保全の意志を示すソーシャルグッドプロジェクト）のPR 活動を行いました。

〈環境負荷の低減〉

 **休憩室とオフィスでリサイクルを実施**

Innovative Textiles, Inc. の全ての休憩室には、再利用可能なプラスチック、缶、ボール紙などを入れる容器を設置しています。またオフィスの各所にも再利用に回す紙を回収するための箱を設置するなど、リサイクル活動に力を入れています。

 **適切な水処理** '97年スタート
シマノ昆山では1997年から水資源の保護に取り組んできました。工場廃水は浄化施設で適切な処理をしています。

 **騒音監視** '99年スタート
シマノ昆山では、工場内の騒音を監視するシステムを構築しています。オンラインでつねに騒音を監視し、そのデータを用いて職場環境の向上を図っています。



信頼の構築

— 人地域社会に企業市民として
参加し協働する

地域社会とのコミュニケーションを密にし、企業市民として共存・共栄を図ることは、当社の理想とする企業姿勢です。日本はもとより、世界各地に拠点を置く地域社会の一員として、地域と一体となって取り組める活動を積極的に行っています。今回は「子供たちの教育支援」「安全で楽しい自転車利用を目指して」「義捐活動」「企業市民として」の4つのテーマに分けてご紹介させていただきます。

全世界に広がるチームシマノ約50の拠点が、信頼の構築を育んでいくための活動を、地道に継続して行っています。ときには拠点同士が連携して取り組んだり、各拠点の活動と内容の情報を共有したりすることで、より充実した社会活動を展開しています。各拠点からのレポートも年々増加しています。ここでは、活動の内容を4つのテーマに分類しながら、その一部をまとめてみました。



子供たちの教育支援



安全で楽しい
自転車利用を目指して



義捐活動



企業市民として



子供たちの教育支援

 シマノジュニアガイドプログラムの実施 '15年スタート
シマノオーストラリアは、ティウイ諸島などの先住民の学生に向けて、現地の釣りガイドを養成するための教育とトレーニングプログラムを提供しています。



 ブリガダエスケワラに参加 '16年スタート
シマノフィリピンは、ファーストフィリピン工業団地と共同で、市民が協力して学校の施設の掃除や補修をするフィリピンの良き文化である「ブリガダエスケワラ」キャンペーンに参加し、地元の学校の床塗りをしました。



 小学生を工場見学ツアーに招待 '14年スタート
シマノ昆山（中国）では、地元の小学校の児童たちを工場見学に招待して自転車と釣具について紹介するとともに、教材とノートを贈りました。



 天津の大学生に奨学金を授与 '14年スタート
シマノ天津（中国）は、学生が学業に専念できるよう、天津工業大学と天津大学仁愛学院の学生に奨学金を授与しました。

 奨学金を寄付 '17年スタート
シマノノースアメリカは、天然資源や生物学、海洋学などを専攻する大学生に、上限3,000ドルの奨学金を支援するプログラムを提供しています。2018年度は9名に合計27,000ドルを支援しました。



 学生インターンシッププログラム '14年スタート
Innovative Textiles, Inc. は、コロラド・メサ大学と提携して、人事、工学、IT、会計・財務を専攻する学生にインターンシッププログラムを提供しています。



 大学生を会社と工場見学に招待 '14年スタート
Innovative Textiles, Inc. は、コロラド・メサ大学との提携関係をさらに強化するため、同大学の学生を会社見学と、工場見学ツアーに招待しています。



安全で楽しい自転車利用を目指して

 **孤児院の子供たちの自転車を整備** '18年スタート
シモノポーランドの従業員とその子供たちは地元の孤児院へ向かい、孤児院の子供たちが快適に自転車に乗れるよう、自転車の掃除、潤滑油注入、部品交換などを行いました。

 **学校訪問の実施** '18年スタート
シモノポーランドでは、従業員が学校を訪問し、子供たちに自転車の進化やシモノの歴史を紹介しました。また、自転車の手入れの仕方や路上での安全な乗り方について講義と実習も行ないました。

 **カンパ・サイクリングを支援** '18年スタート
シモノベネルクスでは、アフリカ・ウガンダのサイクリストたちがサイクリングクラブを設立・維持できるよう、サイクリングウェアの古着と自転車部品を寄付しました。

 **11歳の少年に自転車の歓びを再び** '18年スタート
骨伝導式補聴器をつけ、転倒して頭を負傷したために怖くて自転車に乗れなくなった11歳の少年が、自転車に乗る歓びを取り戻せるよう、レイザーは地元の小売店と協力して、彼に合ったヘルメットを寄贈しました。

 **ウガンダのCooP活動を支援** '14年スタート
オランダ・デルフト工科大学は、ウガンダのCooP（自転車による貧困の救済）に協力し、交通事故の悪い同国でのサイクリストの安全向上のため、地元にある材料を使った丈夫で安価な自転車ヘルメットの開発に取り組んでいます。レイザーは、このプロジェクトを知識面・費用面で支援しています。

 **交通安全公園で自転車の点検修理を実施** '08年スタート
イースト・コースト・パークにある交通安全公園では、年間5万人以上の子供たちが、自転車やゴーカートに乗ったり、道路を歩いたりする体験を通じて交通安全について学んでいます。シモノシンガポールは同公園で150台の自転車の点検修理を行ない、シンガポール警察から感謝状を贈られました。

 **自転車の空気入れステーションを設置** '15年スタート
交通安全公園を自転車で訪れる人たちが増加し、空気入れの必要性も高まってきたため、シモノシンガポールでは、同公園内に恒常的な空気入れの施設を建設し、ポンプの補修管理も行なっています。



 **Pink October に協賛** '18年スタート
シモノラテンアメリカは、乳がんの自己検診の重要性を広く啓発する世界的な運動「ピンク・オクトーバー」の一環として開催された自転車イベントに協賛しました。全参加者にメカニックサポートと駐輪場、景品としてシモノのキャップを提供したほか、バイクフィッティング体験会を行ないました。

 **視覚障がい者のための自転車ライドを開催** '17年スタート
シモノラテンアメリカは、BikXi（タンDEM自転車の配車サービス）と提携して、2回目となる視覚障がい者のための自転車ライドを開催しました。20名を超える参加者のほとんどは自転車が初めてで、タンDEM自転車を楽しんでいただきました。

 **自転車の交通安全の啓発活動を支援** '15年スタート
シモノラテンアメリカでは、世界的な交通安全月間に政府などが実施するキャンペーンに協力し、1日2,500人もの人々が走るサンパウロの自転車レーンで、メカニックサポートと安全な自転車の乗り方のアドバイスなどを行ない、交通安全の啓発を行っています。

義捐活動

 **「Shop with a Cop」プログラムに寄付** '13年スタート
G.Loomisでは、地元ウッドランドの警察署と共同で、恵まれない子供たちにクリスマスプレゼントを贈る「Shop with a Cop」プログラムに寄付を行いました。また従業員がボランティアでイベントの手伝いをしました。

 **孤児院への寄付活動** '14年スタート
シモノカンボジアでは、地元の孤児院の活動を支援するため、2014年から継続して、毎月約1,000kgの米を寄贈しています。

 **青海省玉樹の子供たちに冬服を寄付** '00年スタート
シモノ連雲港（中国）では、地震に見舞われた地域に住む子供たちが一日も早く日常生活を取り戻すとともに、困難時の支援の重要性を知ってもらえるよう、冬服を寄付しました。



 **中等専門学校の技術イベントに協力 '16年スタート**

シマノチェコは2016年から、地元カルヴィナーの中等専門学校と提携し、機械加工の実習を実施しています。教育システムを支援するとともに、技術に興味を持った学生たちが、将来の従業員となることにもつながります。2018年は学校主催の技術イベントへの寄付も行ないました。

 **サイクルレーシングクラブの活動を支援 '18年スタート**

シマノチェコは国内にあるサイクルレーシングクラブの活動に資金的な支援を行なっています。

 **ノーベルギフト活動に参加 '15年スタート**

シマノポーランドでは、クリスマスの時期に、恵まれない人たちに寄付や贈りものをするポーランド固有の「ノーベルギフト」という慈善活動に継続的に参加しています。

 **戦争に巻き込まれた子供たちにウェアを寄付 '18年スタート**

シマノベネルクスでは、戦争に巻き込まれた子供たちがスポーツを楽しむことができるよう、ランニングウェアとサイクリングウェアの古着を寄付しました。

 **ダイジェスト・サイエンス財団への寄付 '10年スタート**

シマノフランスでは、さまざまな自転車イベントや展示会にてテクニカルサポートを行ない、お客様からいただいた寄付金の2倍の額を、消化器疾患を研究する財団に寄付しています。2018年は約3,000ユーロを寄付しました。

 **Pack to School を実施 '16年スタート**

シマノフィリピンはファーストフィリピン工業団地と共同で、地元の小学校に出向いて、子供たちにプレゼントや文房具を贈り、交流を深めるイベントを実施しました。



 **慈善団体に食料を寄付 '11年スタート**

シマノラテンアメリカの開催するシマノフェストでは近年、来場者に持ち寄っていただいた保存食の寄付を行っています。2018年は NGO 団体と提携して、脳性まひ患者を支援する慈善団体に自転車ライド体験と、2トンの食料の寄付を行いました。



 **筋ジストロフィ患者を支援するプロジェクトを実施 '17年スタート**

シマノイタリアは非営利団体と提携して、筋ジストロフィの子供とその親を支援しています。筋ジストロフィの子供たちが歩行困難になったときの支援とサービスを整えるため資金援助と、患者のためのマウンテンバイクのサーキットレースとサイクルツアーの開催をサポートします。



 **孤児院への寄付活動 '06年スタート**

シマノバタム（インドネシア）では、毎年、バタムにある6つの孤児院を訪問し、生活必需品などの寄付を行なっています。



 **団体献血を実施 '00年スタート**

シマノマレーシアは地元の病院と協力して、従業員による献血を実施しています。今回は279パックの血液が集まり、2000年以降の合計は3,817パックとなりました。



団体献血を実施

'16年スタート

シマノフィリピンでは、フィリピン赤十字に協力し、毎年恒例の団体献血を行ない、49名が献血を行いました。参加者には造血効果のある軽食を提供しました。



団体献血を実施

'07年スタート

シマノバタム（インドネシア）はバタム赤十字に協力し、年に3回の団体献血を行っています。2018年度は合計で379パックの血液が集まりました。



企業市民として

ホリデー・エンジェル・ツリー・プログラムに協力

'11年スタート

G.Loomis の従業員は地元の支援団体と共同して、地元の恵まれない子供たちにクリスマスプレゼントを贈りました。



慈善団体への協力活動

'18年スタート

シマノ台湾では、障がいを持つ子供たちを支援する福祉団体に従業員が出向き、ボランティアで子供たちの教室やレストランの清掃などを行いました。



慈善団体への協力活動

'18年スタート

シマノ台湾では、マリア社会福祉財団の入所者たちが作った月餅を購入し、中秋節の贈りものとしてお客様にお渡しするとともに、同財団に寄付を行いました。



独り暮らしのお年寄りへの訪問活動

'18年スタート

シマノ連雲港（中国）では、従業員が独り暮らしのお年寄りを訪問して整髪や洗濯、掃除などを行い、プレゼントを贈りました。



貧しい家庭の子供たちを訪問

'17年スタート

シマノ連雲港では、家庭が貧しく十分な教育を受けられない子供たちを支援するため、彼らを訪問して、学用品などを贈りました。



老人ホームを訪問

'09年スタート

シマノ昆山（中国）では、重陽節に先立ち、地元のお年寄りを訪問してお礼の気持ちとプレゼントを届けました。



従業員の故郷を訪問

'13年スタート

シマノ昆山では、業務の都合などで中秋節に帰省できなかった従業員の故郷をマネジメントが訪問し、家族に謝意を伝えるとともに記念品を贈呈しました。



障がい児のための釣り大会を開催

'17年スタート

シマノヨーロッパでは、障がいのある子供たちに釣りを楽しんでもらうことを目的に釣り大会を開催し、120名が参加しました。大会後は特別賞の表彰やパーティも行いました。

Welcome MABUHAY
ULANGO INTEGRATED SCHOOL



社会活動報告書を読んで

2018年の経済は米中貿易摩擦などで将来に不透明感が始まったと言われる。国や地域によっては影響が顕在化したところもある。だが世界各地に拠点をもつシマノの業績は堅実で、グローバルなビジネス展開の強みを感じさせる。デジタル化や AI化が進んでも、人々の健康、自然、社会への関心は一層高まり、シマノのミッションにつながっていくように思う。

今回の社会活動報告書から浮かび上がってきたのは、2015年9月の国連サミットで提示されたSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) である。2030年目標のアジェンダで17の目標が掲げられ、その基盤は基本的人権の尊重である。本報告書でフォーカスされた4つの分野の底辺には、これらの目標に通じる点を多く見出すことができた。完璧とは言い切れないとしても、「持続可能な開発目標」に向きあっていると受け取れる。それが「SHIMANO」ブランドに人間味をもたせ、企業価値の創造になっているのではないか。

まず事業活動の基本コンセプトは「こころ躍る製品」の提供である。これはユーザー、顧客の「こころが躍る」ことを意味すると考えられる。つまりダイヤモンド・サイド (需要サイド) との会話、つながりの中から彼らが求めるものをオファーすることで実現し、企業価値となるものであろう。自転車部品事業での電動アシスト・ユニットの新機種、マウンテンバイク・レーシング・コンポーネンツ「XTR」の進化、ロード・スポーツコンポーネンツ「SHIMANO 105 R7000シリーズ」はライダーの手元操作性に注目した設計となっている。釣具事業でも旗艦モデル「STELLA (ステラ)」のギア強度、防水性を向上させ、巻きごちをよくした。世界最大級釣具展示会 ICAST では新製品「CURADO DC」が Best Freshwater Reel 賞を、「TEKOTA」が Best Saltwater Reel 賞を受賞している。ライフスタイルギア事業での自転車ソフトグッズの旗艦モデル「S-PHYRE」シリーズでユーザーニーズに適ったウェア、シューズ、アクセサリ、ストレスのないアイウェアなど顧客が顧客につながるブランドとなっているのではないか。

また人づくりとしての社員教育への力の入れ方が顕著だ。外国人社員の多いシマノでは海外拠点でのリーダー研修や、チームシマノメンバーが北米・欧州各地のディーラーに派遣され、現場学習するリーダーシップ養成プログラムがあり、日本本社での階層別研修、コミュニケーション研修、海外派遣研修に加え、海外各拠点 (米国、中国、欧州、フィリピン) でも各種研修を実施しているのは、人の価値を支持する立場から評価されるべきである。

「安全と健康はすべてに優先する」の精神にもとづき労働安全衛生管理体制が整備され、すでに ISO45001 を踏まえた「労働安全衛生行動指針」が「法令順守」「労働安全衛生リスク低減目標・監査」「労働安全衛生リスク低減」「コミュニケーション」「教育・啓発」の5項目で定められている。シマノ本社の中央安全衛生委員会のもと本社安全衛生委員会が設置され、各種プロジェクトや部門ごとの推進部会、また現場対応の安全特化型プロジェクトも開始され、社員の人権尊重、職場環境整備の取り組みとして前向きである。

「歓びの高揚」では自転車文化の創造に取り組む文化推進室の3つの活動を紹介、自転車と健康係、自転車のある暮らしを提案するOVE (機会、価値、気楽さ) 係、都市部での自転車・釣りの楽しみを提案する SHIMANO SQUARE 係でこれらが半世紀の積み重ねと共に人々への歓びとなり持続していくことは意義深い。

アウトドア・スポーツのフィールドは地球環境であり、その保全の努力はシマノの基本的命題である。世界の生産拠点は単に法律やガイドラインに従うだけでなく、生産性とのバランスからエネルギー効率化を追求している。特にシマノグリーンプラン (SGP) では製品含有化学物質管理を協力会社と共に進め、EUのRoHS指令に先立ちフタル酸エステル類の含有を前倒しで制限してきた。現在 SGP9版を運用中で清掃や植樹活動、水処理や騒音監視など身近な活動も評価できる。

企業市民としては地域社会に「信頼の構築」を4つのテーマで実施した。豪州ティウイ諸島の先住民の学生に釣りガイド養成訓練など「子供たちの教育支援」、ブラジルの視覚障がい者のための自転車ライドなど「安全な自転車利用」、カンボジア孤児院へ米の継続寄贈などの「義捐活動」、中国の貧困家庭の子供に学用品を寄贈したり、老人ホーム訪問など「企業市民活動」を世界各地で展開している。

本報告書でシマノのビジネスが SDGs の目標に適っていることを知ることができた。卓越した製品での顧客の歓びと感動的な体験の提供は理解することができるが、今後デジタル経済のさらなる進展の中で、顧客やユーザーと個人的エンゲージメントを築き、彼らに新たなパーソナリゼーションを実現する手段を与えることが求められるのではないか。社会や市場が激変する中、価値創造企業である「SHIMANO」のさらなるイノベーションを期待したい。



チームシマノ社会活動方針

「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」という当社の使命にもとづき、チームシマノは「歓びの高揚」、「利用環境の改善と保全」、「信頼の構築」の3つを柱として、それぞれの社会活動方針にしたがって世界中で活動を推し進めてまいります。

またシマノでは、自らの事業に近い分野での社会活動であること、そして地元への貢献としての社会活動であることを基本とし、身の丈にあった活動を地道に、継続的に行うことが大切であると考えています。



SHIMANO

株式会社シマノ

〒590-8577 堺市堺区老松町3丁77番地

広報部 広報課

Phone : 072-223-3957

Fax : 072-223-6045